

第3回 大牟田市排水対策基本計画検討委員会

議事概要

議事

1) 基本方針と具体的な浸水対策の展開

委員長 : “流す”、“溜める”、“排水する”という対策に異論はないのですが、流域治水の観点からは、浸透というキーワードがあった方が良いのではと思います。

事務局 : “浸透”について、計画書への反映や対策については、関係部局と調整していきたいと考えます。

江口委員 : 短期・中期の年次区分は。

事務局 : 後ほど説明させていただきますが、短期として5年間、その後の15年間を中期として考えています。

2) 浸水弱点箇所と浸水要因と対策

林田委員 : 令和2年の浸水、今年の大雨と、諏訪川の氾濫を心配しています。三井水門について大雨が予想されるときに早めに流すなどの対応について教えてください。

事務局 : 水門操作は操作ルールに基づいて、民間で操作されています。操作する際には、市と県に連絡をいただいておりますが、市民への連絡はしていません。連絡等については、みなと校区からも意見があるので、調整していきたいと考えています。

3) 排水対策基本計画（原案）

林田委員 : 田んぼダムについて進捗を教えてください。

事務局 : 圃場整備を進めている釈迦堂地区で実施予定です。令和7年度末までの完成を目指しています。

林田委員 : 水門について、大雨が予測されるときに水を流すという判断は誰がするのか聞いておきたい。

事務局 : 先行排水として流域治水協議会でも話はあると思いますが、いまのところそういったルールはありません。

林田委員 : 生命と財産を守るということであれば、早めにルールを作ってもらいたい。

事務局 : 流域治水協議会で提言として話をしていきたい。

江口委員 : 排水が難しい地域という認識について、伝えていくことも重要と思いました。そうすると、避難所そのものが浸かる場所もあります。水害の時はあらかじめ違う避難所に避難することも必要かと思いますが、内水氾濫における避難指示等の発令基準を設定予定とあり、避難のタイミングは、かわってくるのでしょうか。

事務局 : 大牟田市は周辺自治体より、早いタイミングで避難情報を発令しておりますので、このタイミングで避難すれば問題ありません。浸水に対しては、全ての避難所で

2階があるので、垂直避難も可能です。もちろん、時間があれば、浸水リスクの小さい避難所への避難が望ましいです。避難所の備蓄も垂直避難を前提として対応しています。また、ソフト対策として各地域で独自の避難を支援していこうと考えています。地域でも考えていただければと考えています。

委員長：避難所の収容ですが、確保できるのでしょうか。収容できるのでしょうか。

事務局：避難対象者を全員収容することは不可能です。地域の避難所、自宅の2階への避難をあわせて分散避難を実施していく必要があります。

委員長：そのような意識付けをしておいた方が良いと思います。原案の中にもそのことは入れておいた方が良いと思います。パブリックコメントを公開する際の意見の聴取の仕方について教えてください。

事務局：市のホームページで周知します。また、広報おおむたにて周知します。まちづくり協議会へチラシを配布や、LINE等での周知を行い、パブリックコメントの実施を知らなかったということをしてできるだけなくすような周知を行います。また、計画書原案は地区公民館などで閲覧できるようにするとともに、ホームページからダウンロードできるようにします。

佐々木委員：ロードマップの表現について、中期対策以降の2年間の表現はどういう主旨か。

事務局：整備後の効果発現を表現しています。

委員長：パブリックコメントにより得られた意見は計画書に反映していくということですね。

事務局：意見を確認して修正すべき点については修正していきます。